

# 第2回小諸市子ども・子育て会議

## 会議録

日時：令和4年12月23日（金）午後7時00分～8時

場所：小諸市役所3階 第4会議室

### 会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
  - (1) 第2期子ども・子育て支援事業計画の点検・評価
  - (2) 幼稚園・保育園の定員変更について
- 4 その他
- 5 閉会

出席者 14名

欠席者 1名

## 1 開会（副会長）

定刻に、中澤副会長より会議の開会が告げられた。

## 2 あいさつ

会長より 子育てや高齢者の諸問題に実際に直面しないと、なかなか自分のこととして捉えることができませんが、委員の皆様と一緒に勉強させていただくつもりで務めさせていただきます。

## 3 協議事項

### （1）第2期子ども・子育て支援事業計画の点検・評価

事務局（こども育成係長）より資料1により説明がなされた。

事務局の説明終了後、会長より委員各位に質問・意見が求められた。

以下、各委員からの意見、質問とその回答

#### 委員

- ・児童館のことでお聞きしたい。延長利用の実績が3児童館の水明児童館、東児童館、美南が丘児童館で示されているが、子どもセンターも児童館機能を備えているが、延長利用はないのでしょうか。

#### 事務局

- ・今回数字では示していないが、子どもセンターは坂の上小学校と野岸小学校の児童が児童館と同じ利用をしていて、延長利用をしている児童もいます。

#### 副会長

- ・保育士が実習等を終わって各都道府県から資格を得るが、若い保育士の地方離れが増えているのではと思っている。例えば、賃金の多いところに行ってしまうから地方には住めなくて、他県に出て行ってしまうということもあるのか。保育士が足りないということも聞くので、そこはどうなっているのか、受け入れ体制とか処遇面はどうなっているのか。差し支えなければ伺いたい。

#### 事務局

- ・地方から離れて行ってしまっているということの分析はできていないのが現状です。0歳児から2歳児の未満時の保育の需要が高まっているが保育士が不足しているのが現状です。0歳児は3人に一人の保育士、1・2歳児では6人に一人の保育士、小諸市は手厚くして1歳児では4人に一人の保育士で保育をしている。処遇面では令和4年2月に国が処遇改善ということで保育士の賃金をあげている。民間機関の保育士は補助金で給付をしています。また、公立の保育士（会計年度任用職員）は給料の号俸を2号俸アップして対応しています。

#### 委員

- ・根本的な質問になります。支援事業計画の概要を見させていただいている。その点検

と評価になるが、何において点検をして、何を評価しているのか、理解ができないので、説明をしていただきたい。

#### 事務局

- ・支援事業計画に従って事業を行っていて、量の見込みに対して確保できているか、計画に対して実績がどうかの点検と評価になります。

#### 委員

- ・点検の部分では実数ということで数字を出していただいている。評価ということに関すると、今回小諸市は実施計画に対して十分にこの計画に達せられたという認識でよろしいでしょうか。

#### 事務局

- ・本来であればこの計画は毎年実績を出して、市全体で今の体制でどうかというのを見直していくのが本来であったが、委員の任期が切れてしまったという中で、今回2年分の点検となった。例えば、保育園の入所定員については、実際、先ほども述べた通り、年々未満児の入園が増えている中で、今回コロナの関係があつて、当初の計画とだいぶ違ってきているのは認識している。また、実際には計画の数と実績に10%の違いがあれば、計画の途中であっても見直しをかけなさいというのが本来である。コロナの関係も含めて当初の計画とだいぶ違ってきているところがあるので子ども育成課としても達成できましたという状態ではないが、この会議を始めるにあたって、2年間分の実績を委員の皆様にご認識していただきたい。また、令和5年度は第3期の計画を作っていくにあたって、ニーズ調査等を始めていかないといけないのでその前提として資料を示させていただいた

実際、評価の部分は間に合っていない。コロナを除いても数値的に達成できていない部分があるというのが事実です。今回は評価の部分まできちんとできていないことで申し訳ありません。

来年度は子ども家庭庁ができる関係で、子ども基本法が施行されて、今度は市町村の計画も、子ども基本計画を作りなさいとなっている。また、次回の計画も来年度明確になってくれば、ニーズ調査等を行うことも委員の皆様にお諮りしていく。

#### 委員

- ・点検・評価については理解しました。

子どもを小諸市で育てた。私たちが子育てをしている時は、コロナは関係なかった時代で、こもロッジでいろいろな相談をさせていただいたり、市の検診事業を受けさせていただいて、子育てをしやすかった環境だった。

コロナが発生して3年間において、子育ての環境がガラッと変わって、その間も出産、子育てをされる方は多い中で、これから先は、コロナだったからしょうがないではなく、WITHコロナでいかなければならないという状況の中で、コロナに対する評価をしていただいた上で、計画を十分に見直していただきたいというのが、市民として感じているところですので、反映していただきたい。何を变えたらいいのか、具体的に抽出していただけるとありがたいということを要望として伝えさせていただきます。

## 事務局

- ・2・3年度はコロナの関係で幼稚園、保育園、小学校は、一人でもコロナが出たら学級（クラス）を閉鎖していた。ただし、幼稚園、保育園は要望がある限り開園をしなければなりません。また、児童館についても学校が学級閉鎖になってしまう中で、コロナを広めないために、どこまで開けるのか、子ども育成課でもなかなかわからない状況にありました。市民の方は当然、利用ができなく、行く場所がないという状況は感じていますので、見直しをして、計画を作っていきたい。

## 委員

- ・運動遊び事業のところですが、幼稚園に下の子が通っている。実績の回数は外部からきている方のことか。

## 事務局

- ・そうです。巡回指導の回数については委託先の専門の運動保育士が行っている指導の回数です。

## 委員

- ・子どもが通っている幼稚園でも運動遊びを行ってもらい、子どもたちも実際楽しそうだし、続けていただきたいと思っているが、今後は、保育士がスキルを身に付けて行っていく予定ということだが、具体的にいつごろからと決まっているか。

## 事務局

- ・運動遊び事業は当初5年間子ども育成課で事業を委託し、その後は市として進めていくという形でやっていたが、なかなか定着といかなく、今も継続してもらっている。今後は、保育士にやってもらうということで、来年度以降もある程度の回数は入れて、巡回指導で園に行ってもらうだけでなく、他の園でやっているところにも保育士が行って、研修をしていくということも検討しているが、いつまでというのは決まっていません。

## 委員

- ・安心安全な環境整備について、通学路のパトロールについて、子ども110番の家の看板がわかりづらい家がある。玄関等にあると子ども達もわかりづらくて、入りにくい。そういう意見が学校であった。見えやすいところに掲げていただけるよう声をかけていただけたらありがたい。いつもボランティアの方にパトロールしていただき感謝しています。

## 事務局

- ・110番の家が児童からわかりづらい部分もあるかと思しますので、担当課と連携して取り組んでいきたい。

## 委員

- ・養育支援訪問事業の件数が少ないと思われる。虐待とか、お母さん達がどう子育てしていったらいいのかの相談、経済的な部分も含めていろいろあると思うが、養育支援には家事支援も入っていると説明には載っている、実際に、本当に困っている家庭はもっとたくさんあると思います。ファミリーサポートセンターでは、送迎とか、預かりしかできないので、この事業で、そういう家庭、子ども達を救って、手を差し伸べていかなければならないと思います。この辺の小諸市の状況が知りたい。

## 事務局

- ・この計画を作った時もあったが、最近、ヤングケアラーという問題もかなり出てきました。今年長野県でも調査をして、先般、新聞にも掲載されましたが、小学生の高学年から、兄弟姉妹やお母さんの世話をしているという子どもがある一定量います。それに対して市としましては、今年度も事業としてはありましたが、なかなか、そういったご家庭を特定することと、虐待等で要対協の対象になっているご家庭については、デリケートな問題もあって、家庭に入っていくのがなかなか難しいというのがあった。来年度は市として子ども家庭総合支援拠点を立ち上げて、国の補助もありますので、養育支援についても、実際に家事援助等ができますので、需要があれば、家庭に入っていける体制が来年度予算にあります。ただ、どう周知していったらいいか、支援の必要な家庭にどう入っていくのか、これからの課題です。学校でも、この家庭が本当にそうなのかという判断が難しい状況にある。事業としては利用できるようなにはなっています。

## 委員

- ・ワークライフバランスの推進という項目があり、「企業・事業主に対し、託児施設の設置、働き方改革による時間外勤務縮減等の労働環境の整備促進、また、就業規則へ育児休業制度の規定の設定、短時間勤務制度の利用促進等について啓発を行い取り組みの促進を図ります。」と書かれてあるが、具体的にどの企業に対して、どのようなアプローチでデータが出されているのか知りたい。特に小諸市の中である産別、産業にどのような形で推進されているのかをお聞かせ願いたい。

## 事務局

- ・取り組みを測るということで、具体的な実績はない状況です。どこに対してが把握できていなくて申し訳ありません。子ども育成課でも確認させていただき、どこにという成果が把握できるのかが難しい部分もありますが、確認させていただきます。

## 委員

- ・市だけで情報を把握するのは非常に難しいと思う。いろいろ、子育て支援の内容を出されていると思うが、やはり、小諸市の地域全体で取り組まないと、子どもの未来は育てられない。そう思っていますので、所属の団体では、そういったデータを出してほしいとか、そういう話をさせていただければ、各企業の制度は把握できているので、そういったところで協力できると思っています。是非、利用していただければと思います。

## 事務局

- ・5年度に入ると、次期計画に向けて、いろいろなデータが必要になると思われる。その際にはご協力をよろしくお願いいたします。

## (2) 幼稚園・保育園の定員変更について

事務局（こども育成係長）より資料2により下記のとおり説明がなされた。

- ・保育施設の利用定員の設定に関し、市町村長は審議会、その他の合議制の期間を設置している場合はその意見を聞かなければならないとなっている。
- ・さくら保育園の、全体の定員は変更ありませんが、実情に合わせて変更したい。  
3歳から5歳の定員を減らし、0歳から2歳の定員を増やしたい。
- ・しらかば幼稚園は令和5年度からは5歳児50名、4歳児40名、3歳児30名の120名の定員としたい。
- ・令和4年度の1号定員は525人、20名減となっても実績の414人の受け入れは確保できる。

事務局の説明終了後、会長より委員各位に質問・意見が求められた。

以下各委員からの意見、質問とその回答

### さくら保育園補足

・事務局より説明がありましたが、実情に応じて変更したいと、お願いしているところ  
です。

元々90名定員で保育園を運営していたが、認定こども園になるにあたり、1号定員分の9名の増員を県の指導の下にしました。現状では、令和4年度は5歳が29名、4歳が22名、3歳が20名、2歳が18名、1歳が12名、0歳が9名です。

先月、5年度の申し込みが終わりました。0歳が6名定員のところに17名の申し込みがありました。1歳は、現在0歳が9名いるので、そのお子さんたちが持ち上がりま  
すと、12名定員のところ、3名の枠に11名の申し込みをいただいているという状況  
です。できるだけニーズに応じた形で対応したいという思いがあり、保育士の数が決ま  
っているので、3歳以上児（3・4・5歳児）の人材をできるだけ未満児のほうに、ニ  
ーズのほうに割きたいという思いから、ご相談をさせていただいた経緯となります。

### 委員

- ・今の話の中で保育士の人員が決まっていますと話があったが、それは何か決まりごとがあるのか。

### 事務局

- ・児童何人対して保育士を1人配置しなさいという決まりごとがある。0歳児は3人に1人の保育士、1・2歳児は6人に1人、年少3歳児は20人に1人、年中4歳児、年長5歳児は30人に1人、国の基準で保育士を配置しなさいとなっています。その国の基準に基づき保育を行っています。

### 委員

- ・市民としてのニーズとしては、募集人員に対して大幅に上回っていれば、私の考え方で言えば、保育士を増やせばいいと思うが、それができない理由は何かあるのか。

### 委員

- ・保育士の数もあるが、保育園に限りますが、子どもたちを適切に受け入れられる広さ、面積基準が設けられている。小さい所にたくさんの人数を入れて保育するというこ

が、育ちの観点から駄目だということで、子ども一人に対しての広さが定まっている。乳児に関しては、ほふく室と保育室、正確な数字がすぐ出てきませんが、施設の大きさが、ただ単に保育士を採用すればいいというものではないとご理解いただければと思います。

#### 委員

- ・育児に対する安全という視点で言えば、確かに施設の大きさというものはあるかと思えます。ただ、市の行政サービスとして考えた時に、ニーズに対する回答というのはどのように考えているのか。国のほうは女性活躍推進しなさい、という話をしているにも関わらず、行政はそれに応えられないというのは課題を感じませんかと思いました。

#### 事務局

- ・以前であれば、保育は3歳以上児がメインでやってきた。小諸市の人口推計、以前の資料を見ていただければわかりますが、毎年、児童数が減ってきているのは見えてきているところですが、ただし、ここ近年、未満児（0・1・2歳児）全体の保育の需要がすごく増えてきているという現状があります。これに対して国のほうでも待機児童を出さないように、減らすよという方針でやっていますが、一方で施設の大きさも国の基準で決まっています、その基準に達しなければまず受け入れてはいけないというのがまずあります。また、公立の保育園でも、今現在も保育士の募集をずっとかけているが、なかなか、なり手がいない、来てもらえないという部分があり、厳しい状況であるというのが現状です。

子ども育成課でも、正規職員は職員定員がありますので、パートの方に処遇面での見直しをかけて、募集をしていますが、現状としてなかなか保育士が集まらない。佐久地域、長野県、全国的に保育士が不足している状況があつて、その中で、できる限り受けられればということで努力しているが、想定していたよりも未満児の需要がすごく増えているのが現状です。市のほうもこれに問題を感じないというわけではなく、重々承知していて、それに対して、どうやって対応していくのかが、これからの課題だと思っていますし、課題だと捉えています。

#### 委員

- ・人口が減ってきているのは重々わかりますし、説明いただいた内容は理解できますが、0歳児のニーズが22年に増え、今後23、24、25年にどうなるかといった時に、0歳児のニーズは限りなく増える。そうした時に市はどう対策を打っていくのか、どう課題を挙げて、どういう問題があつて、それに対してどう対策を練っていくのかというところが、市民には求められるというところですが、ぜひとも、今現状の世の中の変化に対して、行政がどう追従していくのかというところが求められると思いますので、少し先を見た形で子育ての計画といったところを、変わるところは変えて、計画通りのところは計画通りにといった形をお願いしたいというところです。

#### 事務局

- ・前回もお願いしましたが、幼稚園も含めてですが、保育所の再配置について、子ども子育て会議の中で検討いただければと考えています。よろしくお願ひいたします。

#### 4 その他

事務局（こども育成係長）より2点の確認があった。

- ・子ども子育て会議は公開となっているので、会議録についてはHPに掲載となるがご了承いただきたい。

- ・次回会議は3月又は、状況により令和5年度に入ってとなるが、中間年、または、それに関わらず見直しをしていくとなっているので、そういったところも踏まえて、実績に照らして見直しがあればその提案をさせていただきたいと考えている。また、子ども子育て会議で意見を伺いたい。

#### 5 閉会

会長より、閉会のあいさつがあり、会議を終了した。